

新婚の夫婦を地域で祝う 伝統行事が開催されました

1月に行われた、春日地区の「春日の婿押し」と小倉地区の「嫁ごの尻たたき」。
 今年は、それぞれ2組の夫婦を迎えて開催されました。

★表紙関連

1/12 春日の婿押し

国の重要無形民俗文化財に指定されている春日の婿押し。数百年の歴史を持ち、左義長、子どもの樽取り、宿の行事、樽せり、お汐井とり、婿押し(婿もみ)などの一連の行事があります。

午後7時、春日神社境内の左義長の点火で行事を開始。宿の行事では、勝野 裕さん・しおりさん、白水雅人さん・優香さんが紹介されました。

その後、締め込み姿の氏子たちが極寒の御池に勢いよく飛び込み、祭りの最大の見せ場である樽せりに突入。樽を何度も踏み割り、幸運を招くといわれる樽の破片を奪い合いました。

勇壮な姿を一目見ようと、御池の周辺にはたくさんの人が詰めかけ、熱気に包まれていました。



▲花婿と花嫁を紹介する「宿の行事」



▲樽せり前の、神職によるおはらい



▲拝殿で御神酒をいただく参加者



▲花嫁のお尻をそっとたたく子どもたち

1/14 嫁ごの尻たたき

新婚の夫婦が盛装して小倉住吉神社を参拝し、その花嫁のお尻を子どもたちがワラを巻いた棒でたたくという、大変珍しい祭りです。花嫁が嫁ぎ先や地域になじむように、子宝にめぐまれるようにとの願いが込められています。

今年は、田中義隆さん・智子さん、山本颯一郎さん・早紀さんを迎えて開催されました。

参拝の後、左義長の周りを夫婦でゆっくりと1周。その間、子どもたちがトントンと優しく花嫁のお尻をたたきました。多くの人から祝福を受け、田中さん夫婦は「地域に根ざして生活していきたいという思いで参加した」、山本さん夫婦は「これからも仲睦まじく過ごしていきたい」と話していました。

